パブリックコメント結果（序論・後期基本計画）

※「ご意見等」は原文で掲載しています。なお、個別の事案・特定個人に該当するご意見部分は非公開とさせていただきます。

No	政策名	施策No・名	ご意見等	町の考え
1	序論	－	「3. 計画策定の基本的な考え方 ④多文化共生社会の実現」について 原文「現在、製材業を中心に多くの外国人労働者が本町で勤務しており、労働力不足解消の一助となっています。また、今後人口減少が加速すると見込まれる中で、外国人の労働力はさらに重要性が増すと考えられます。 本町では「つながる日本語教室」をはじめとした、外国人の生活環境改善に取り組んでおり、多文化共生社会の実現に向けた取組を推進する計画を目指します。」 上記下線部に対して、意見、提案をします。 「多文化共生社会の実現」において、外国人へのまなざしは「労働者」としての側面だけでなく、吉野町に住み暮らす一人の生活を営む人という捉えが基本だと思います。 吉野町に住み暮らす外国人のすべてが、労働を目的に来日して暮らしているわけではありません。 家族と一緒に暮らすため、キャリアアップのためなどの理由で日本に来た人もいれば、日本生まれ、日本育ちの外国ルーツの子どもたちや、仕事を引退した人、家族を支えるため家事に従事する人もいます。 「労働力不足解消のための外国人労働者」ではなく、「共生」という言葉にあるように、隣人として「共に生きる人」と捉えるべきと考えます。 人口減少が加速し、外国人比率が上がる中、外国人の労働力だけではなく、地域自治への参画など、様々な側面から重要な存在になるということだと思います。 また、地域日本語教育「つながる日本語教室」の取組みは、確かに外国人等（日本語を学ぶ人）が、生活に必要な日本語能力を習得し、円滑な意思疎通が図れるよう支援することで、社会包摂につなげるものですが、同時に、日本人住民（地域で受け入れる側）が、日本語教育の活動に参加することを通じ、多様な文化への理解を深めることで、共生社会の実現につなげるという取り組みです。「外国人の生活環境の改善」だけでなく、外国人日本人に関わらず、吉野町に住み暮らす人すべてが、円滑なコミュニケーションと相互理解の姿勢を目指すことこそ、多文化共生社会の実現に向かうものであると考えます。 多文化共生社会の実現は、外国人だけが努力をしたり、支援されたりして実現するという一方的なものではなく、彼らを含めた住民一人ひとりの意識が変わることにより実現するものということが伝わる記載になるとよいと思います。 ４１Ｐ「（１）社会的包摂に向けた社会教育を推進します」にある、「生活者としての外国人」との捉えで考え方を統一してはいかがでしょうか。 また、「つながる日本語教室」の取組みとともに、「やさしい日本語の普及」に関しても並記で触れることで、日本人（受け入れ側）にも関わることであると伝わると思います。	日本人・外国人のような国籍にとらわれず、町で暮らす方々が安全・安心して生活ができる環境を整備するため、お互いの文化や考え方を知る機会を作るなど相互理解を深めることで違いを認め、受け入れる環境づくりに取り組みます。ご意見の趣旨を踏まえ、序論を修正いたしました。
2	序論	－	多文化共生とは、単に町の労働力不足解消の役目を担うものではありません。 国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化の違いを尊重し、同じ地域社会の一員として共に生きていくことをいいます。多文化共生を進めることで地域社会が活性化し、それがひいては地域産業や経済の発展・振興につながるという考えです。 基本計画におけるこのような労働力不足解消ありきの書きぶりを見るに、町の多文化共生に対する意識は非常に遅れていると言わざるを得ません。まずは多様な価値観を持った人々に対する理解を町全体として深め、それらの人々を受け入れる体制を整えること、地域のコミュニティに参画できる環境を整備することが必要ではないでしょうか。 そういった活動の一つとして、「つながる日本語教室」を行っていると書かれていますが、現在の正式名称は「吉野つながる日本語教室」です。町の取組みについての正式な名称すら把握されていないということは、やはりこういったことに無理解、無関心であると感じられます。	
3	序論	－	吉野の産業について、製材業などの減少により、木材関連産業が衰退する中で、町の基幹産業としての位置付け続けることはいかがなものか？	ご指摘のとおり、社会情勢の変化に伴い、産業のあり方を見直ししたり変えていくことが必要であるため、現状と向き合い、今後の町の産業の方向性の検討に取り組んでいます。

パブリックコメント結果（序論・後期基本計画）

※「ご意見等」は原文で掲載しています。なお、個別の事案・特定個人に該当するご意見部分は非公開とさせていただきます。

No	政策名	施策No・名	ご意見等	町の考え
4	序論	－	p11 下施策の…グラフが字が小さくて見えない。住民のほとんどは高齢者なので！！ 資料は読み手に伝わってなんぼ！！	文字サイズや色などよりわかりやすくつたわりやすい表現に見直しをします。
5	序論	－	p18 と p29 のグラフはデザイン統一した方が良いのでは？p18 の方が見やすい。	グラフのデザインを統一します。
6	序論	－	また、歳出は p18 と p29 の切り口が異なるのは何故か？統一しないと比較出来ないので。	歳出の項目は統一します。
7	序論	－	序論の最後（２２ページの後）が良いと思います。 その前に、述べていることの総括としてSWOT分析の４つの象限に分ければわかりやすいのではないでしょうか。しかも、単なる羅列でなく、基本計画のまとめ方（４つの政策）につながるようにグルーピングするか、もしくは４つの政策ごとにSWOT分析をします。 すれば、弱みをどうするのか？脅威にどう対応するのか？と言う視点で次の政策につながりやすいと思います。	現状を把握・整理した結果の整理方法の提案をいただきありがとうございます。 SWOTのようなフレームワークを活用した整理方法も検討します。
8	全般	－	p35 以降の SDGs の文字が薄く、小さ過ぎて読めない。	計画に掲載している文字は読みやすいサイズや色に調整します。
9	人を育む吉野町	5 社会体育と生涯スポーツの推進	高齢者にとって浸透していないモルックより、既に広く普及しているグランドゴルフを推した方が良いのではないか？目的はモルックの普及ではなく、高齢者の健康作りではないのか？それとも子供向けか？	高齢者や子どもを含むすべての方が健康的な生活を送ることができるようにするため、モルック等の軽スポーツを推進することで、気軽に運動習慣を身に着けるための環境を整備します。
10	人を育む吉野町	6 人権が尊重されるまちづくり	４５P「（５）多文化共生の地域づくりに取り組みます」について 原文「生活者としての外国人のための地域日本語教室・学習支援者のための研修講座・やさしい日本語講座・多文化理解のための研修講座を開催します。行政情報の多言語対応（やさしい日本語表記も含）の推進・行政職員の在住外国人のための生活オリエンテーションコンテンツを開発・実践します。在住外国人の活躍の場を創出します。」 上記下線部について、意見、提案をします。 多くの様々な文化を受け入れ、共生できる地域という意味で「多文化共生の地域づくり」という表現であると思いますが、研修講座は多くの文化を知識として理解するということではなく、自分とは異なる文化に対して理解しようとする姿勢を育むものと思われますので、それであれば「異文化理解」が適しているのではないでしょうか。 原文からは、人口減少の中、労働も含め、地域で活躍してほしいという思いが伝わってきますし、外国人の中にはそういった機会を求めている方もいると思います。しかし、外国人だからといって特に活躍しなくても居心地悪くならないような地域社会が実現できるといいと思います。外国人だから（ただでさえ目立つので）日本人のように振舞ったり、もしくは「活躍」して特別な存在になったりしなければ、周囲に受け入れてもらえないのではないか、などと思って、自分らしさを押し殺して無理をしている人もいます。活躍の前に、まずは安心して自分らしく日々の生活を送ることができる、ということが大切ではないでしょうか。その上で、活躍したい、できる人には活躍の場があるといいと思います。 一方で、多文化共生の地域づくりには、受け入れ側の住民への丁寧な説明も必要と感じます。在住外国人の存在感が急激に増す中、不安を覚える人もいると思います。その不安が差別感情につながれば、多文化共生どころか分断を招きます。在住外国人のための生活オリエンテーションコンテンツの開発・実践に関しては、新しく外国や他の地域から来た人が安心して吉野町での生活を始められるだけでなく、彼らが地域のルールを正しく理解し、守ってもらうための取組みであること。そして、このことにより、元から住んでいる人も、彼らを安心して受け入れられるようにするための取り組みでもある、ということも伝わるとよいと思います。	日本人・外国人のような国籍にとらわれず、町で暮らす方々が安全・安心して生活ができる環境を整備するため、お互いの文化や考え方を知る機会を作るなど相互理解を深めることで違いを認め、受け入れる環境づくりに取り組みます。

パブリックコメント結果（序論・後期基本計画）

※「ご意見等」は原文で掲載しています。なお、個別の事案・特定個人に該当するご意見部分は非公開とさせていただきます。

No	政策名	施策No・名	ご意見等	町の考え
11	人を育む吉野町	7 協働のまちづくりの推進	地域担当職員が現状名目だけになっている。職員の裁量に任せるのではなく、職員が行動しやすい制度体制を期待したい。	地域担当職員の役割を整理し、各地域の方々とコミュニケーションをとり、地域の活動の一助となるような仕組みを検討していきます。
12	人を育む吉野町	8 職員の人材育成	近年、一般企業でも評価基準の明確化（明文化）が広まりつつある。「田舎だから」にとらわれず時代に沿った制度を期待したい	職員の人材育成のため、研修やOJTなどに取り組んでいます。今後も継続するとともに、時代の変化に対応できる職員の育成に取り組みます。
13	循環と発展を目指す吉野町	9 自然環境及び生活環境の保全・保護	合併浄化槽への転換を推進するにはコスト負担を考慮すると何らかの補助を行わないと絵に描いた餅になるのではないか？	汲み取り・単独浄化槽家庭に対して、合併浄化槽への転換の推進を図るため、合併浄化槽の設置補助事業に取り組んでいます。
14	循環と発展を目指す吉野町	9 自然環境及び生活環境の保全・保護	循環と発展をめざす吉野町　不法投棄について ●河川でのゴミが減らない 夏場川遊びのゴミの持ち帰りが多く見受けられる ●ゴミ箱の設置を増やすのはどうか 吉野川　高見川で川におりる場所はわかっていると思うので、設置場所については各大字の区長、自治会長に尋ねればわかると思われる	ご指摘のとおり、河川利用者のマナー向上などの啓発を継続的に取り組みます。
15	循環と発展を目指す吉野町	9 自然環境及び生活環境の保全・保護	自然環境について日本で最も美しい村連合からも脱退をしました。その後どういった意識を保つことが出来るのか？そういったことが書かれていない。	環境衛生デーや河川美化活動等の取組を通じ、町の自然環境や生活環境の保全、美化の推進を図り、町民の自然を大切に育む意識を高めます。
16	循環と発展を目指す吉野町	10 一般廃棄物の適正な処理	ゴミ問題と野焼き問題は合わせて取り組む必要がある。特に高齢者の野焼きは車の運転以上に危険であるが、高齢者ほど野焼きが当たり前になっている。ゴミ減量の為野焼きを黙殺していては本末転倒である。	野焼きは環境問題にも直結するため、ゴミの問題ともあわせて対応が必要であるため取組を進めます。
17	循環と発展を目指す吉野町	11 農林漁業の振興	就農者にしても、鳥獣被害対策実施隊にしても、増員は不可能だと思われる（増えるより減る方が早い）。それ以上に農地をソーラー業者に売り渡す方が深刻で、所有者側が更地にしたら町が無償で譲受け、公園や無料駐車場として整備する等（あくまで例）、利活用した方が良いのではないか？	農業者の高齢化や後継者不足に伴い、荒廃農地（遊休農地）が増加している状況です。新規就農者・認定農業者等の維持・増加に向けた、取組の検討に加え、農地景観を保全するための取組を進めます。

パブリックコメント結果（序論・後期基本計画）

※「ご意見等」は原文で掲載しています。なお、個別の事案・特定個人に該当するご意見部分は非公開とさせていただきます。

No	政策名	施策No・名	ご意見等	町の考え
18	循環と発展を目指す吉野町	12 商工業の振興	産業や雇用に関する記載全体に夢が見えません。残念です。 吉野町は、第三セクターの運営がないので役場が起業することが書けないことは理解しますし、それはそれで正解と思っています。が、せめて起業家支援金の倍増とか、200万円＊５年とか書きませんか？ その代わり、キッチリした事業目論見を求めます。審査も厳しくします。 私は、個人的に成功率70%の吉野町に適した小さな起業（企業）を考えて、勉強していますが、資金と人がいません。場所は、吉野町のあちこちにたくさんあります。 どうでしょう、わたしのような人（期待するのはもっと若い人）から200万＊５年を目指して、起業（もしくは事業拡大）家コンペをしませんか？町が盛り上がります。新たな可能性が発見できます。吉野町には楽しい人がたくさんいますよ。	ご指摘のとおり、社会情勢の変化に伴い、これからの産業のあり方などを検討していくことも必要ですが、和紙や製箸等の伝統産業を守り、発展させていくことも重要と考えています。今後も町の産業の方向性の検討に取り組みます。
19	循環と発展を目指す吉野町	12 商工業の振興	伝統産業に囚われ過ぎだと思う。その昔、蚕から和紙に、和紙が売れなくなったから箸に。で、箸がダメになったから箸をなんとか！というのはこれまでの流れから反する。箸がダメになったなら、次の産業を模索すべきだと思う。伝統産業はあくまで伝統産業である。	
20	循環と発展を目指す吉野町	12 商工業の振興	零細企業が多い中、子供が事業承継しない家庭が多くなった 原因は何だろうと考えると働く時間がない、生活出来る収入が確保できない等考えられる 補助金等の対応だけの問題ではないと思う →原因は何だろうと考えると働く時間が長い	ご指摘のとおり、事業の継承者がいないことは事業を引き継いでも生活できる収入が確保できないことが要因となっています。伝統産業を守っていくという視点からも補助金以外の対応策についても検討を進めています。
21	循環と発展を目指す吉野町	14 魅力あふれる観光の振興	昨今、オーバーツーリズムが他所観光地で問題となっている。それに対する何らかの明記をすべきではないか？合わせて、デマンドバスを観光客に使わせる事で地域住民の足に影響（待ち等の発生）が起きる事がないよう十分に配慮いただきたい。	オーバーツーリズムの問題は認識しており対応策についても検討を進めているところです。
22	循環と発展を目指す吉野町	16 関係人口の創出と移住定住の促進	空き家改修補助金について、現状、近隣他市町村と比べて他を抜きん出て最低で、実際改修にかかる費用を鑑みると厳しいと思う。移住者は他との取り合い合戦である。他の市町村に負けない競争力をつけて欲しい。また、他の田舎市町村でも先駆して移住者の獲得に成功したが、結局移住者の子供らは仕事が無いと言って都会に出て、また過疎地化している話を聞く。移住者の囲い込みだけでなく、その後の事も考えないと穴の開いた船の水をかき出しているいるだけになる。	限りある財源の中で、移住を希望される方の支援に繋がるよう少額ではありますが補助制度を維持したいと考えています。また、移住前後のフォローにつながることを目的に、地域の方々や先輩移住者との交流の機会などを創出することで定住促進を図ります。

パブリックコメント結果（序論・後期基本計画）

※「ご意見等」は原文で掲載しています。なお、個別の事案・特定個人に該当するご意見部分は非公開とさせていただきます。

No	政策名	施策No・名	ご意見等	町の考え
23	循環と発展を目指す吉野町	16 関係人口の創出と移住定住の促進	上市で新たに移住体験スペースを整備するとの新聞掲載記事を拝見しました。上市には既に10年前から移住体験スペースゲストハウス三奇楼があります。町税1500万円を使い整えるのであれば特色の違う別地域で移住体験スペースを設けるべきではないでしょうか。ここでも偏りを感じます。 上記の内容をよく調査、ご判断頂き、町政の在り方を今一度、熟考し、未来ある吉野町になることを願います。	今回ご提出いただいたパブリックコメントのご意見を真摯に受け止め、適切な検証と必要な改善を迅速に進めてまいります。なお、個別の事案・特定個人に該当するご意見部分は非公開とさせていただきます。ご理解いただけますよう、お願い申し上げます。また、本パブリックコメント結果の回答は個別の事案への個別回答ではなく、本町の今後の方針を整理したものです。今後とも住民の皆様の信頼を最優先に、透明性の高い運用と対話を重ねてまいります。 吉野・上市地区を起点として、地区内外の人々が交流するまちの賑わい拠点としたいと考えています。関係人口や移住・定住者増加につながることを目指し、この地域を、吉野町全体の活性化に取り組む拠点としたいと考えていることから、町所有の施設を活用し、移住体験施設の運営をすることとしました。
24	循環と発展を目指す吉野町	17 利便性の高い公共交通システムの構築	デマンドバスのネット予約はスマホ熟練者でも使い勝手が悪いと感じる。ましてや高齢者となるとさらに厳しいと思われる。普及も大切だがそれ以前に改善や代替え方法の検討を願いたい。	ご指摘のとおり、事前予約やネットでの予約などに慣れていない方もいらっしゃるため予約システムの利用サポートだけではなく、他の選択肢も検討し、より利用しやすい環境の整備を進めます。
25	循環と発展を目指す吉野町	24 地域防災力の向上	防災リーダーは役場職員から捻出するのか？地域住民から捻出するのであれば自主防災組織の責任者と兼任になるのではないか？有志の人に様々な担当を兼任させている現状を理解出来ているか？	ご指摘のとおり、人口減少に伴い、地域における役割を兼務する方が多くなり、ご負担が偏っているため、人材確保策など対応策の検討を進めます。
26	安心できる吉野町	29 安全で快適な居住環境の整備	町発注の工事なども景観や環境に留意していくといった文言があれば良いと思う。最後は美しい住環境と思いますので、よろしくお願いします。	ご指摘の通り、町発注の工事等においても景観や自然環境に配慮することが必要であるため、今後もいただいたご意見を踏まえて取組を進めます。
27	持続可能な吉野町	31 情報通信技術等を活用したデジタル化の推進	デジタル化推進に関して： 推進条例？が制定されて３年？が立っていますが、未だに計画がありません。 せめて、専門人材の育成（採用？）と計画策定そのものを活動指標や取組み内容に入れるべきです。さもないと、いつまでも書類の山の役場。印鑑リレーの役場が続きます。今、スマホを使えない高齢者が多いことも活動にブレーキをかけていると思いますが、１０年後をみれば、その方々を良い意味で無視して進めることもありだと思います。私が最近気に入っているのは、この審議会の出欠をQRコードから回答できることです。これくらいは、吉野町主催の会議等で常識にしませんか。	住民サービスの向上及び行政事務の効率化の視点からデジタル化の推進は重要と考えています。そのため、ご意見を踏まえて、職員の意識改革や人材育成などの取組を進めます。
28	持続可能な吉野町	32 財政健全化と行財政改革の推進	成果指標　経常収支比率　目標値　98.7%について、推計をされた結果で目標設定していると想定するが、 硬直的すぎる目標設定ではないか。この目標では、弾力的な行政運営は出来ないのでは。	町の財政状況を踏まえて、現実的かつ持続可能な財政運営を確保する観点から設定しています。

パブリックコメント結果（序論・後期基本計画）

※「ご意見等」は原文で掲載しています。なお、個別の事案・特定個人に該当するご意見部分は非公開とさせていただきます。

No	政策名	施策No・名	ご意見等	町の考え
29	持続可能な吉野町	33 広報広聴の充実	若者は cvy や広報誌がダメだが LINE なら見るという訳ではないと思う(0 ではないと思うが)発信する内容が見たいと思わせる内容ではないのが大きいと思う。見せたい相手に見たいと思わせる表現方法を模索してはどうか？	ご指摘のとおり、町からの情報発信にあたり興味や関心を持ってもらえるような発信方法が必要であると考えています。そのため、ご意見の趣旨を踏まえ、主な取組の記載内容を変更しました。